

# 会 議 録

全部記録    要点記録

<b>1 会 議 名</b>	姫路市地域医療連絡会議（第2回）
<b>2 開催日時</b>	平成28年8月31日（水曜日） 13時30分～14時30分
<b>3 開催場所</b>	姫路市防災センター5階 会議室
<b>4 出席者又は欠席者名</b>	委員 18名、オブザーバー 7名
<b>5 傍聴の可否及び傍聴人数</b>	傍聴可、5名
<b>6 議題又は案件及び結論等</b>	<ol style="list-style-type: none"><li>1 開会</li><li>2 新委員紹介</li><li>3 座長の選任</li><li>4 議題<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 姫路市における救急医療体制の現状と課題について</li><li>(2) 医療系高等教育・研究機関について</li><li>(3) 新県立病院の医療機能について</li></ol></li><li>5 閉会</li></ol>
<b>7 会議の全部内容又は進行記録</b>	詳細については別紙参照

	<p>1 開会 (13 : 30)</p> <p>2 新委員紹介</p> <p>3 座長の選任 座長 姫路市医師会会長 山本 一郎</p> <p>4 議題</p> <p>(1) 姫路市における救急医療体制の現状と課題について 資料1・2・3</p> <p>(2) 医療系高等教育・研究機関について 資料4</p>
A委員	<p>高等教育・研究機関について具体化に向けて検討を進めているとのことであるが、いつ頃を目途に具体化されるのか。</p>
事務局	<p>現在、獨協学園、県病院局及び市において、高等教育・研究機関について協議を進めている。整備内容、整備面積、高等教育・研究機関と病院と連携等について協議している。</p>
A委員	<p>高等教育・研究機関が具体的に決まらなければ、新病院も具体的な内容が決められないのではないかと。</p>
事務局	<p>高等教育・研究機関は本構想に基づいた内容で、さらに具体化していく。県病院局にも本構想を提供し、連携している。</p>
座長	<p>イベントゾーンでは、高等教育・研究機関と新病院とが併設されるということと同時進行で検討を進めており、本会議でも意見を伺って、皆様の理解を得ながら、より良いものをつくってもらいたいと考えている。</p>
A委員	<p>イベントゾーンに病院を整備してもらうことは有り難いことだが、本エリアのコンセプトは、高等教育・研究機能である。そのため、新病院の医療機能が充実したものにならないのではないかと心配である。新病院を基本と考えるならば、イベントゾーンのコンセプトを変えた方が良いのではないかと感じる。</p> <p>高等教育・研究機関を基本とする場合、内容を具体的に決めてから、それに必要な病院を建設すべきである。一方、病院を基本とする場合、市にとってどのような病院が大切か明確にした上で、それと連携できる高等教育・研究機関を検討した方が分かりやすく良いのではないかと考えている。</p> <p>(3) 新県立病院の医療機能について 参考資料2</p>
座長	<p>前回意見を伺えなかった委員から意見を伺いたい。</p>
B委員	<p>西播民間病院協会で話題になるものは、新病院の規模と高等教育・研究機</p>

事務局	<p>関との関係性である。イベントゾーンの広さや駐車場やアクセスをどうするのかも気になる。文化・コンベンション施設をイベントゾーンへ誘致せず、新病院のみとしてはどうか。計画がどの程度進んでいるか分からないが、今後検討していただきたい。</p> <p>文化・コンベンションエリアについては、先日の姫路駅周辺整備特別委員会で、施設の実施設計を進める承認を得たと伺っている。</p>
C委員	<p>イベントゾーンに関しては市民も注目している。アクセスについて、駅の近くで便利と思いがちだが、決してそうでない。道の動線も必ずしも良くないように思う。文化・コンベンションエリアで実施設計を進めるとのことであるが、2,000人規模のイベントがあった場合、救急車が通る場所が確保できるのかや、駐車場の台数をどの程度確保するのかも課題である。交通動線、交通のあり方について、敷地内も敷地外も検討すべき課題であると思う。</p> <p>広畑・網干地域の方々は、移転によって製鉄記念広畑病院がなくなってしまわないかと心配している。具体的にどのような残し方ができるか分からないと、地域の方々は安心できない。全体の絵面が定まってくると市民の理解も得やすく、また、市議会においても議論がしやすいのではないかと。それらを踏まえて検討していただきたい。</p>
事務局	<p>交通アクセスについては課題であると認識している。市内部でも姫路駅周辺整備室など関係部局とワーキンググループにおいて検討しているところである。</p> <p>市南西部の医療機関の確保については、県病院局の報告書に記載していただいているが、「市南西部地域の医療提供を確保するため、県及び製鉄記念広畑病院の両院において、姫路市の協力を得ながら、医療機関の誘致を図っていくこと」とあるため、それに向けて努力している。</p>
C委員	<p>努力は分かっているが、いつ頃具体化されるのか分からなければ、広畑に病院がなくなってしまうのではないかという意見が出てくる。</p> <p>イベントゾーンの課題において連携しているとのことであるが、駅周辺は大きく変わった。整備が進んだことにより、今まで混雑していた所が変わっている。新病院ができた場合を想定して、シミュレーションをしておかなければならないと思う。救急医療は一刻一秒を争う。しっかりと取り組んでいただきたい。</p>
事務局	<p>交通シミュレーションなど検討を進めていき、対応していきたい。</p>
A委員	<p>当初イベントゾーンには、県立病院のみの移転でも狭いのではないかと考えていたが、それに製鉄記念広畑病院も統合することとなり、高等教育・研究機関も整備すると、広さが足りるのか懸念している。</p> <p>三次救急に対応した医療機関が2機関あったが、1機関になったことによってデメリットが生じると思う。デメリットを補うために広畑にどういった機能を持った病院を誘致するのか。地域医療再編の問題について、具体的な</p>

	<p>内容の議論をしなければ、市民は不安である。</p>
事務局	<p>面積については、最大で延床面積9万㎡程度まで整備可能であると聞いており、市としては、整備可能であると考えている。</p> <p>製鉄記念広畑病院については、慢性期でなく急性期に対応している病院であるため、市も協力して急性期病院の誘致を図っていきたいと考えている。</p>
A委員	<p>誘致の具体的な目途、内容について伺いたい。</p>
事務局	<p>まだ具体的に報告できる段階ではないが、具体化した段階で報告したい。</p>
D委員	<p>新病院の医療については様々な診療科目ができ、救急対応もされるため楽しみにしている。今まで市内に様々な基幹病院があり、それぞれすみ分けがあったので、今まで通り連携していくことが課題となると思う。</p> <p>高等教育・研究機関については、病院は病院長がトップであるが、高等教育・研究機関は別組織となるのか。病院と高等教育・研究機関のトップが違って、現場ではしっかりと連携がとれるのか。</p>
事務局	<p>高等教育・研究機関については、現在、獨協学園が設置するものであり、獨協医科大学と姫路獨協大学の組織が設置される方向で協議を進めている。組織は別になるが、高等教育・研究機関が機能するには、病院の臨床機能と連携する必要がある、その内容について協議を進めている。</p>
D委員	<p>現場の医師がスムーズに診療できる体制を整えていただきたい。</p>
E委員	<p>市内には、看護学部や看護学校が多くあるので、その実習生の受け入れが気付きである。人材を育てるためには多くの病床数が必要であり、スタッフ数も多くなければ人材が育成されない。現病院で受け入れていた学生以上に新病院に受け入れられるのか気付きである。</p> <p>また、西部地域の方々は製鉄記念広畑病院がなくなるのではないかと危機感を持たれている。ヘリポートができていながらもつたいないとの意見も聞く。それらをどうするか検討していただきたい。</p>
事務局	<p>懇談会の中で、併設病院に求める条件として、「実習の場の提供や教育の実施等の連携が行える、一定の規模を有する総合型の高度専門医療を行う医療機関」とあるので、実習にも対応していただけると認識している。</p> <p>ヘリポートについては、市も整備助成しているので、急性期病院を誘致していただき、ヘリポートを活用していただけるよう要望している。</p>
座長	<p>今までの意見を集約すると、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整備場所の広さとアクセスについて、丁寧な分析と説明を今後も継続していただきたいこと。</li> <li>・ 製鉄記念広畑病院の跡地について、現在、県、市及び医師会も急性期の医療機能を残した病院を誘致するために検討を重ねている。規模等については、中播磨地域の許可病床数の枠もあるので新たな誘致には制限が出て</li> </ul>

F 委員	<p>くる。まだまだ検討を重ねる必要があり、引き続き、地域の方々が不安に思わないような医療機能を残せるように協議を進めていただきたいこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高等教育・研究機関について、獨協学園を中心に考えているが、大学と病院とで協議を進め、臨床等に支障が出ないように進めていくこと。</li> </ul> <p>資料2で、医療従事者の確保策について、医師については平成21年から、小児科については平成18年から取組を進めているが、これらによって成果があがったのか確認したい。取組状況について、手当の増額と記載されているが、これでは医師は集まらないのではないかと。医師にとって魅力のある施策を考えなければ集まらないと思う。</p> <p>また、新病院の病床数は740床程度を基本に考えているが、今後、人口が減少していく中で、本当に大規模な病院が必要であるのか。しっかりとコンセプトを固めてから議論すべきである。</p>
座長	<p>小児科医の確保については、委員から確保策によって成果があがっていると伺っているので、説明をお願いしたい。</p>
G 委員	<p>10年前、急病センターの小児科医は高齢化により人数が減少し厳しい状況であった。そのため、市内、市外、県外からも広域的に出務医確保に乗り出した。現在は、神戸大学、川崎医科大学に協力していただき、夜間では、年間の約50%をカバーしていただいている。それ以外にも、近隣では、神崎、加西、佐用、太子、たつにも依頼し、出務医は中・西播磨全体で確保している。姫路赤十字病院からも年間で6回の出務協力をいただき、小児科の一次救急体制が整備されていると考えている。成果としては、市小児科医会の医師の出務回数が半減し、負担が軽減されたと考えている。</p> <p>一方、内科は高齢化により患者数が増加している。高齢者の診療については、問診や様々な検査が必要であり、医師の疲弊が広がっている。そのため、3年前から内科医の雇用も開始した。県内、県外からも来ていただいている。</p>
座長	<p>本会議において、様々な貴重な意見をいただいた。事務局において、課題を整理し、引き続き検討を進めていただきたい。</p> <p>また、兵庫県におかれては、統合再編基本計画の策定に向けて、これらの意見を参考にしていきたい。</p> <p><b>5 閉会 (14:30)</b></p>